

受験番号

2024年度

神戸国際中学校 C選考

国語

(2024年1月16日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(本文に一部表記を改めたところがあります。)

私たちは、子どもに言葉を教えるときに、物を見せてその名前を呼んだりします。(あ)、リンゴを見せて、「これはリンゴだよ」と教えます。そのとき子どもは、何がリンゴという名前で呼ばれているのかを自分で理解しなくてはなりません。子どもには、リンゴだけでなく、それを持っている手やお父さんの顔など、さまざまなものが見えています。そのなかのどれが「リンゴ」なのか、どうやってわかるのでしょうか？

指で差してやったらわかるでしょうか。(い)、指の先には、リンゴだけでなく、赤い色も見えます。赤い色が「リンゴ」なのかもしれない。あるいは、何かが手にのついている状態が「リンゴ」なのかもしれません。ひよっとすると指が「リンゴ」なのかもしれない。「リンゴ」という言葉が何を指しているのかには、無数の可能性があります。何かを見せてその名前を呼んだだけで、その名前が見えているものの中のどれを指しているのかを決定することは、論理的に考えると極めて困難なのです。

(う) 子どもたちが①この困難を経験のみによってa克服するならば、もっとたくさん経験が必要なはず。たとえば、「リン

ゴ」という言葉一つを学ぶために、リンゴは赤い色でない、手にのついている状態でもない、指でも笑っているお父さんでもない……などと、無数の可能性をすべてbケンショウする必要が。しかし実際には、②たった一回、リンゴを示して「リンゴだよ」と言うだけで、子どもは何がリンゴなのかを適切に理解してしまいます。しかも子どもは、「リンゴ」という名前が、眼前がんぜんに示された固有名ではなく、他のリンゴも「リンゴ」と呼ばれるのだということも理解します。これは、子どもが「名前で呼ばれるべきもの」がどんなものなのかをあらかじめ知っていると考えるほかないでしょう。

そもそも子どもは「物には名前がある」ということも自分で理解しなくてはなりません。たとえば、チンパンジーのような人間に極めて近いと考えられている動物でさえ、物を見せてその名前を呼ぶような教え方では決して言葉を学びません。チンパンジーには、物には名前があるということがわからないのです。しかし、物には名前があるということ、どのようにしたら教えることができるのでしょうか。③これは、名前を教えること自体の前提ですから、単に名前を教えることにはできないのです。

このように考えると、言語を学ぶためには、言語とは何なのかについての知識があらかじめ子どもの側にc備わっていないか、あるいは「物には名前がある」とか「A名前は種類を示す」とか、さらには「B個体※識別することが重要なものについては固有

名詞がある」「C行為や動作を示す言葉(動詞)もある」「文章は語順によって意味がまったく変わってしまうことがある」といったことを、子どもの側があらかじめ知っているからこそ、子どもは短い期間で言語を獲得することができるのです。

このように、言語を学ぶためには経験だけでなく、前提となる知識が必要だという※チョムスキーの主張はもつともなので、現在の言語学では※定説の一つとなっています。

もちろん、その前提となる知識が具体的にどのような知識で、どのような形で遺伝子に書き込まれているのかといった点については論争があります。たとえば、「子どもはリンゴが何かをあらかじめ知っている」というのは、あきらかに無理のある主張です。この世界にある、名前で呼ばれるべきものがすべて④人間の遺伝子に書き込まれているわけがありません。他方、もう少しdイッパンの能力、たとえば物体を識別し、その※類似性を判断する能力なら、遺伝的だといってよいかもしれません。

いずれにせよ、言語は単に経験のみによって学ばれるのではなく、人間の生得的な要素が関わっていることは、まず間違いないでしょう。

( 山口裕之 『「みんな違ってみんないい」のか?』 )

※識別：見分けること。

※チョムスキー：アメリカの言語学者。

※定説：広く正しいと認められている説。

※類似：互いに共通点がみられること。

問1 ll a s dのカタカナを漢字で、漢字はその読みをひらがなで

答えなさい。

問2 ( あ ) ・ ( い ) ・ ( う ) に入る語を、

次のアくオから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア もちろん イ だから ウ しかし エ もしも

オ たとえば

問3 | ①「この困難」とありますが、どういうことが困難のです

か。本文中の具体例を用いて六十字以内で答えなさい。

問4 | ②「たった一回、リンゴを示して『リンゴだよ』と言っただ

けで、子どもは何がリンゴなのかを適切に理解してしまいます。」

とありますが、これはどうしてだと筆者は考えていますか。次の

文の ( ) に入る部分を本文中から四十字以内で探

し、最初と最後の五字を答えなさい。

筆者は（ ）から理解できるのだと考えている。

問5 — ③「これ」とありますが、どういうことを指していますか。

本文中から十五字以内で抜き出さない。

問6 || A・B・Cについて、それぞれが説明している言葉の例として適切な語群を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美しい 甘い うれしい 細い

イ 野菜 果物 肉

ウ ニュージールランド 東大寺 ピカソ

エ 咲く 走る 持つ

問7 — ④「人間の遺伝子に書き込まれている」とありますが、「人間の遺伝子に書き込まれている」と同じ内容を指している語句を本文中から十字以内で抜き出さない。

問8 本文の内容として適当なものには○、適当でないものには×をそれぞれ答えなさい。

ア 子どもが何かの名前を理解するのは、その物がその名前を持つ

つということを生まれつき知っているからだ。

イ 子どもはリンゴの名前を教えられるより前に言葉の性質についての知識を持っているから名前の指すものを理解できる。

ウ 人間に近いとされるチンパンジーは、物には名前があるということや言葉の性質をある程度わかっていると考えられる。

エ 筆者は、言語は経験のみで理解することはできないというチヨムスキーの説を正しいと考えている。

二 次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定

のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。

(本文に一部表記を改めたところがあります。)

中学生の早紀は合唱コンクールでクラスの指揮者に選ばれ、朝の合唱練習に向かおうとしている。クラスメートの岳は部活の練習に打ち込み、朝の合唱練習に参加しようとはしていなかった。

校舎の時計は、まだ七時にもなっていないかった。こんなに早く登校したのは初めてだ。

開いているかどうか、試すように通用門の方を押すと、扉は抵抗なく開いた。

しんとした学校は、まだ①眠りから覚めていないようだった。早紀も遠慮するように、昇降口に向かってそろそろと足を進めた。

体育館の横を通っているときだ。中からボールが跳ねる、ダンという音が聞こえた。

早紀は驚いて立ち止まった。しばらく耳をすませていると、もう一度、ボールが何かに当たって、床に落ちる音がした。

……バスケット？

誰かがこんなに早くから練習をしているようだ。上級生だろうか。

思いも寄らなかった。生徒の中では、②自分が一番乗りであることを確信していた。

いったい誰なのか気になる。

体育館の入口の方に、さらに足音をしのばせて近づいた。体育館の扉は開け放たれていた。男子生徒がひとり、こちらに背を向け、奥のゴールに向かってシュート練習をしていた。

靴を脱ぐスペースのところまで、（A）足を運ぶ。

がちりとした上半身に、二階の窓から差し込む朝日が当たっている。ライトのついていない体育館で、彼の姿は浮き上が

って見えた。

彼はゴールに向かって身構えた。とても集中していることが、離れていても伝わってきた。

自分のせいでこの集中を乱してはいけぬ。

早紀は息を詰めた。

彼はボールを放った。ボールはゴールのバックボードに跳ね返って、そのまま戻ってきた。ボールが床を打つダン、ダンという振動が、※緊迫した空気を震わせた。（中略）

彼がボールを拾いに行った。こちらに向き直るのでは、と早紀は身を硬くした。でも、うつむいてドリブルしていた彼は、早紀の姿に気づくこともなく、もとの位置に戻った。

早紀は（B）したのもつかの間、③気配を消すことに集中し、いつそう慎重に呼吸を繰り返した。

彼はリラックスさせるように、首を左右にこきこき折った。

その場で二、三度ボールをつく。そして、祈りをこめるようにボールを見つめたあと、構えに入った。

たか一本のシュート練習にすぎないのに、彼が大事な試合で※フリースローをするような錯覚に陥った。

ボールが放たれた。

お願い、入って。

気づくと胸のところまで、両手を合わせていた。

(C) という鈍い音がした。ボールはゴールを捉えるどころか、棒に当たって勢いよく跳ね返ってきた。受け取りそびれたボールは、入り口の方に転がってきた。

彼が後ろを振り向いた。

早紀は④直立不動になった。

ボールが減速しながらやってくる。

逃げ出すことも、もちろん声をかけることも、ボールを拾おうとすることすら出来なかった。

彼は、同じクラスの岳だった。

どんなに目立たない存在だからといって、そしていくら気配を消そうとしていたからといって、この※シチュエーションで早紀に気づかないわけではない。

岳は一瞬驚きの表情を見せた。片脚をかばいながら、こちらに向かってくる。右脚にサポーターを巻いていることに、このとき初めて気がついた。

うまくいかなかったシュートを見られたせいなのか、岳は決まりが悪そうに目をそらせた。

岳は早紀のすぐそばまでやって来ると、ボールをつかもうと腰を折った。

そのとき、ふわっといい香りがした。

※柑橘系の爽やかな香りに、甘く香ばしいような香りが混ざ

ったような、今までかいだことのないとてもよい香りだった。

髪に何かつけているのだろうか。

早紀は知らず知らずのうちに、息が続く限り香りを吸い込んでいた。

ボールを拾い上げるときにぶつかった岳の目の鋭さに、ふと我に返った。射るような目だ。

目力の強い岳の目を、こんなに間近に見るのは初めてだ。別に戦っているわけではないのだが、その視線攻撃だけで、早紀は⑤白旗を揚げたい気持ちになった。

「何」

さらに、⑥思いつきり不機嫌そうな言葉を浴びた。

「……」

早紀はどぎまぎして、細い身をさらに縮こまらせた。岳はふいと背を向けると、ボールについて戻りながら、

「俺、そっちには出ねえし」

捨てゼリフみたいに吐いた。

ああ、そういうことか……。

※合点がいった。さっき、早紀の姿に気づいた時に目をそらしたのは、合唱コンの朝練にでないことへの後ろめたさがあったようだ。

でもまさか、※晴美ならともかく、早紀が岳に対して朝練に

出ないことをなじったり、出るようにお願いしたりするなんてこと、絶対にない。

別に誘いに来たわけじゃないと、岳の勘違いを訂正したかったが、それも出来そうになかった。岳の背中はとっくに離れていた。

ふと、体育館の時計に目をやると、七時をとうに回っていた。早紀は慌てて体育館をあとにすると、昇降口に急いだ。

( 佐藤いつ子 『ソノリテイ はじまりのうた』 )

※緊迫：きびしくさしせまること。

※フリースロー：バスケットの試合で、相手が反則した場合、一定の線からゴールへ向かってシュートすること。

※シチュエーション：状況。その場の、またはそのときのありさま。

※柑橘：ミカン類の果樹・果実の呼び方。

※合点がいく：事情がよくのみこめる。

※晴美：「早紀」と「岳」のクラスメイト。

問1 | ①「眠りから覚めていないようだった」とありますが、

ここに用いられている修辞技法を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体言止め イ 倒置 ウ 擬人法 エ 隠喩

問2 | ②「自分が一番乗りである」とありますが、これはどういうことですか。二十字以内で答えなさい。

問3 ( A ) ・ ( B ) ・ ( C ) に入る語として適当なもの、次のア～エから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア むつと イ ガンと ウ キュツと エ そつと  
オ ピリツと カ ホツと キ さらつと

問4 | ③「気配を消すことに集中し、いつそう慎重に呼吸を繰り返した」とありますが、「早紀」はどう考えていたからこのようにしたのですか。次の文の ( ) に入る部分を本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

早紀は ( ) と考えていたから。

問5 ―④「直立不動」とありますが、このときの「早紀」の心情として適当でないものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア とまどい      イ 緊張      ウ 怒り      エ 驚き  
オ 恐れ

問6 ―⑤「白旗を揚げたい」とありますが、「白旗を揚げる」の言葉の意味として適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の行為を反省し、謝罪する。  
イ 相手をほめたたえ、敬意を示す。  
ウ 降参し、戦意がないことを示す。  
エ 味方であることを相手に知らせる。

問7 ―⑥「思いつきり不機嫌そうな言葉」とありますが、どうして「岳」はこのような言葉を発したと「早紀」は考えましたか。本文中の語を用いて三十五字以内で答えなさい。

問8 本文の表現の特徴や内容として適当でないものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 複数の異なる登場人物の視点からそれぞれの気持ちをしていねいに描いている。

イ 練習に集中する「岳」を見て、「早紀」の「岳」に対する興味が深まっていく様子が見られる。

ウ 主人公一人の視点で学校生活の一場面を擬音語や比喻を用いて描いている。

エ 「早紀」は「岳」に誤解されたことに腹立たしさを感じていたが、それを言えずにいる。

オ 人の気配のない学校の様子を描くことで、二人だけの空間を調する効果をもたらしている。

三 次の①～④の文の―部の語と同じ意味・用法のものをそれぞれ次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

① 友だちに呼び止められる。

ア 試験の結果が心配される。

イ 試験はいつでも受けられる。

ウ 知らない人に道を尋ねられる。



エ 校長先生がまもなく来られる。

② 早く本が読みたい。

ア 今日(は)めでたい日だ。

イ 日曜日の昼間はいつも眠たい。

ウ この本はとても重たい。

エ 今日(は)カレーが食べたい。

③ 都会に住む。

ア 友だちと遊びに行く。

イ 水が氷になる。

ウ 寒さにふるえる。

エ 校庭に誰がいる。

④ 明日は改めて電話で話をしよう。

ア その道は安全でない。

イ じゃがいもを鍋で煮込む。

ウ 運動会は校庭で行われる。

エ プラスチックでできた容器。

選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 何度話し合っても( ) ( )。

② ( ) ( ) ような怪談を聞かされる。

③ こわそうな人に話しかけるのに( ) ( )。

④ 彼のあまりに非常識な発言に( ) ( )。

⑤ 親しかった友人から( ) ( ) に絶交を言いわたされる。

⑥ 二チームが優勝をめぐつて( ) ( )。

ア 長い目で見る      イ 開いた口がふさがらない

ウ やぶから棒      エ 立て板に水

オ 火花を散らす      カ 二の足をふむ

キ 身の毛もよだつ      ク ちが明かない

ケ ふくろのねずみ      コ 口をはさむ

サ すずめの涙      シ 目を細める

四 次の①～⑥の文の( ) ( )に入る語を次のア～シから一つ